

## ごあいさつ

皆様方には、平素より私ども八幡信用金庫をご利用、お引き立ていただきまして、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。当金庫をより一層ご理解いただくため平成28年度の決算内容等を取りまとめたディスクロージャー誌2017「はちしんナウ」を発刊いたしました。



### 平成28年度実績について

安倍内閣は、昨年6月アベノミクスの第2ステージとして少子高齢化に立ち向かい、新たな経済社会システム創りに挑戦するため「ニッポン一億総活躍プラン」および新たな有望成長市場の創出・拡大、生産性の抜本的向上、人材強化等の課題解決に取り組むため、名目GDP600兆円に向けた成長戦略（「日本再興戦略2016」）を公表しました。

昨年の金融・資本市場は、日銀のマイナス金利導入、中国経済減速懸念、英国の欧州連合（EU）離脱、米国新大統領の就任などが影響して大きく変動しました。

こうした環境の下、当金庫の業績につきましては、預金積金残高は前期比40億53百万円（3.81%）増加の1,103億10百万円となりましたが、貸出金残高は資金需要の低迷などから前期比1億24百万円（0.42%）減少の295億90百万円となりました。

収益面においては、貸出金利息が前期比47百万円減少の5億62百万円、資金運用業務において国際分散投資の更なる拡充を図った結果、有価証券利息配当金は前期比9百万円増加の8億25百万円となりました。加えて機動的売買に注力した結果、国債等債券売却益5億41百万円、株式等売却益5百万円をそれぞれ計上し、経常収益は21億65百万円となりました。

費用面においては、預金利息が前期比16百万円減少したものの、国債等債券売却損が49百万円増加したことなどから、経常費用は14億99百万円となりました。

この結果、経常利益は前期比37百万円増加の6億66百万円、当期純利益は前期比77百万円増加の4億51百万円となりました。

### 今後の事業展望について

平成29年度のわが国経済は、一億総活躍社会の実現に向けた施策および名目GDP600兆円に向けた成長戦略（「日本再興戦略2016」）による地方創生、女性活躍などにより、デフレ脱却や経済の好循環に向けた動きがより確かなものになると期待されています。

一方、世界経済は米国の保護主義的な政策や欧州の主要国選挙の行方、中国経済の減速および朝鮮半島を含む地政学リスクなどの攪乱要因が多く不透明感が増しています。

当地域においては人口減少と高齢化が進展し、経済の地盤沈下が懸念されています。こうした経営環境の中、当金庫は平成29年度を初年度とする中期経営計画を策定し、そのテーマを「守り継ぐ」としました。創業以来相互扶助を旨とする協同組織金融機関として地域金融を担い続け、地域の発展に貢献すべく努力を積み重ねてきましたが、これからもこの地域の存続・発展のため、全役職員の力を結集してまいります。今後ともご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成29年7月  
理事長

木下節夫